

あけまして
おめでとうございます



2024年正月

明けましておめでとうございます。戦争や政治にまつわるカネの問題など、内外とも激動が続いています。本年も皆さまとともに、戦争国家づくりを許さない運動を強めていきたいと思います。さて、治安維持法が日本に制定されたのは、1925年（大正14年）4月のことでした。実際に日本でこの法律が猛威を奮ったのは、1928年から1933年（昭和8年）の頃までのことです。1933年12月にいわゆるスパイ査問事件などが警視庁から発法され、事実上1935年（昭和10年）にはあらゆる民主的諸活動は停止されてしまいます。にもかかわらず、権力側は治安維持法に目的遂行罪をかかげ処罰の範囲を無限定に広げ、当該被疑者、被告人の刑期が終了しても予防拘禁所を開所するなどの暴挙を実施していきます。この治安維持法によって獄中におかれた人は日本だけでも約6万人強、朝鮮、台湾を加えれば10万人を超えるとされています。しかも、朝鮮、台湾において50名を超える人々が命を奪われているのです。

政府はいまだにこの治安維持法の蛮行の数々の非を認めていません。「治安維持法」も国会の制定を受けた法律であり、当然のものであったとしています。1945年（昭和20年）10月に廃止になったこの法律はすでに廃止から80年近く経過しています。治安維持法の闘いを大いに盛り上げなければなりません。戦後補償として日本の過去を総括する闘いです。

山梨県本部長 加藤啓二



治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
山梨県本部

〒400-0047

山梨県甲府市德行4-3-17
「平和と労働会館」

山梨県版

編集発行人
田中鉄夫

TEL 055-253-9710

Fax 同上

私たちの運動の基本方針

ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

一、治安維持法体制の復活に反対する。

二、国は、戦前の治安維持法が人道に反する悪法であると認めること。

三、国は、治安維持法の犠牲者に謝罪と賠償を行うこと。

「わが青春つきるとも」

第3次上映運動を

成功させよう！

「わが青春つきるとも」伊藤千代子の生涯」の県内での上映運動は、2022年1月に結成された実行委員会が核となりすすめてきました。2022年5月の文学館での上映を皮切りに、9カ所でのべ14回の上映会が開かれ、これまで1177人が鑑賞してきました。人口比では長野に続いて全国2位となっています。今県実行委員会では中央の呼びかけに応え第3次上映運動の実施の準備をしています。県実行委員会では、峡南地域での上映を実現したいと働きかけ、これまで4回の打ち合わせ会（峡南地区実行委員会）を開き検討してきました。

この中で、様々な困難はあるが3月31日～4月14日の期間に峡南地区

全体で200名を目標に上映会を開く事を確認しました。市川三郷町、身延町では見通しが立てられ地域実行委員会（現地実行委員会）をこれから組織していく予定です。富士川町、南部町での上映は見通しが立っています。またこの期間中が自由に使えますので、峡南地区だけでなく他地域や、職場、団体、サークル等の小規模の上映会も計画したいと準備しています。峡南地区の実行委員会では、「今なぜこの映画を広げる必要があるのか」という疑問に答える形で2回の学習会がもたれ、「治安維持法体制とは」「伊藤千代子はその時代をどう生きたのか」を学びました。いま新しい戦前と言われる状況の中で、千代子の生きた時代と闘いを学ぶことが、「戦争させない」「9条を守る」闘いの大きな力になることを確信しました。

中巨摩支部 戸田 康



わたしも同盟員です

甲斐市 最上紀和子さん

私たち甲斐市の仲間は甲府での18時からの19日行動へ熱心に参加しています。ある時、甲斐市でもとの声多く、「戦争させない甲斐市ネット」を立ち上げ、19日のお昼にアクションを起こして数年経ちました。同じ頃、治安維持同盟にも参加しました。

伊藤千代子さんの映画でより同盟の役割の大切さを痛感しているところです。最近Facebookに学友が下記のような記事を投稿していました。私たち70年代の学生時代のように正義 平和 自由 平等を求める学生がいることを知りとても嬉しく思いました。京都大学の社会科学研究所ピース・ナビが「同大11月祭」に「731部隊と京大」「京都大学の学問と植民地主義：私たちの想いと活動報告」をパネルにし、「京大が“研究”の名のもと行ってきた人権侵害…731部隊と遺骨盗掘」を告発しています。

グラウンドや通路で行われていた様々な出



店などとても賑やかなのに比べると、立ち寄る人はあまり多くないが、「新しい戦前」が言われる今、京大の学生たちがこのようなテーマで自主的にとりくんだことを嬉しく感じる記事でした。同盟の「再び戦争と暗黒政治をゆるすな！」の黄色い旗が毎月の19日集会に翻っています。粘り強くめげない、しっかりと前進していく！同盟の熱い姿勢はとも勇気づけられています。これから楽しく賑やかにそして他団体と交流しあい楽しい活動となるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

女性部・学習部合同学習会のお知らせ

12月号の不屈で

『半田滋さんの記念講演「敵基地攻撃と日米一本化 防衛費倍増は国民負担に」(パワーポイントにトラブルがあり、資料を見ながら)パワーポイント36コマの量を、”あのうその”は一言も入らず一気に！お話はとてもよくわかり、わかった気分が一時間が過ぎましたが、伝達講師はとてもできそうにありません。が、交流会の報告会(予定)で学習しようと思えます。』とお知らせさせていただきました。

県本部女性部・学習部合同学習会 「全国女性交流集会」報告会

《日時》 2024年1月24日(水)
午後1時30分～3時

《場所》 事業協ビル5階 第5会議室
(甲府共立病院むかい)

学習部のお力を借りて、パワーポイント36コマを資料に学習させて頂きたいと思えます。
ご一緒に「半田滋さん」のお話を読み解いてください。ご参加をよろしく願います。

女性部長 遠藤昭子



今年こそ
平和で昇り竜!!

女性部
だより

「NAGASIMA」がくりの証言」を観て

女性部 谷口洋子

一月二五日、ドキュメンタリ映画上映会があった。三〇年にわたるハンセン病療養所「愛生園」の元患者の方々の心の叫び、証言に揺さぶられ、生きてきた宮崎賢監督自身の熱い思いがあいさつの中にも映像にも観客席に伝わってきた。わたしには知らないことがいっぱい。数十年前に「まがね」文学会で「愛生園」を訪問したことがあったがそれはほんの一部。その時は握手もしました。しかし、日本社会全体にあるハンセン病への無知と偏見、差別を、そして元患者のみなさんの苦しみを深く考えなかったことを今回の映画でまざまざと考えさせられました。

「人権」ってなんだろう？ いつも頭にあることですが抽象的です。自分の言葉で説明できませんでした。

この映画で語られたことに驚愕しました。家族と引き離され、生涯を「隔離の島」に生き、外出の自由もなく、「懲罰獄」があり、断種しないと園内結婚もできない。もし妊娠

すると「墮胎」される。私は語る言葉が見つかりませんでした。

子供で入所した人の義務教育はどうだったのか。唯一、

呂久高校の分校「新良田校舎」があったがその人達の人生は？ 想像がつかない。

そんな中を元患者たちは「らい予防法撤廃」、差別告発裁判に勝利し、「人間回復の橋」長島大橋がつけられた。

私は傍観者だったことを反省しました。

失った人の苦しみを初めて「人権」の具体的実像が解ったのは人間としてあまりにも罪深いと知りました。自分自身も人間らしく、誰もが対等な人間として世の中でまっすぐに生きられることをめざして闘っていく勇気の大切さを学びました。



ドキュメンタリ映画「隔離の島—NAGASIMA」を観て

倉敷市児島 小山和正

ハンセン病療養所愛生園、光明園は瀬戸内市にある。私は合併前の呂久町に生まれ一八歳まで暮らしました。

愛生園のことでいつも思いました。昭和三年に設立された岡山県立呂久高校新良田（にいらだ）校舎。ハンセン病の子供たちの高校です。私は呂久高校の生徒。

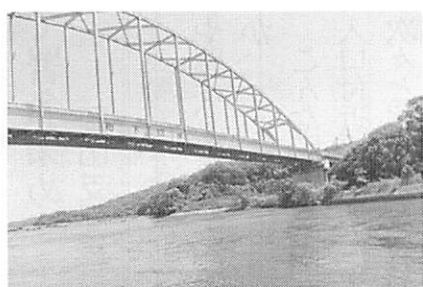
高校生の頃にF先生から「新良田の生徒の眼は君らとは違う。輝いとるぞ」と叱責されました。後年、その新良田校舎の生徒と付き合う機会があり、年上の人もいましたが「学ぶ意欲」、「しっかりした人生観、社会観」を持っていることに驚きました。

当時、私たちと新良田校舎の生徒でバレーボールの「交流試合」をするのがあり、虫明の港から長島の愛生園棧橋に渡りました。私は内心、「差別はしない」「そんな気持ちはない」と自分に言い聞かせながら、試合が終わって手を消毒しました。成人してから愛生園の方からそのこと

を指摘され「赤面」の思いをしました。

「交流試合」が終ってから新良田校舎の生徒たちが棧橋から船が見えなくなるまで、手を振っていた情景を思い出します。頭上には見たことのない大きな月が輝いていました。

「隔離の島—NAGASIMA」ハンセン病をテーマにした宮崎賢さんの映画を観て感動しました。映像を通じて懐かしい先輩諸氏にお会いしました。高校生の頃はまだまだ「偏見と差別」が強く残り、深刻な事態もありました。しかし、あの時代の「新良田校舎」の高校生たちの屈託のない明るさは「隔離の島」でそれに負けない強さ、生きることにへの確信なのか、今の時代に生きるものに大きな希望となります。



に負けない強さ、生きることにへの確信なのか、今の時代に生きるものに大きな希望となります。

治安維持法下の闘い 白菊の君―荻田アサノ

日本女子大国文科に入学。
様々な人と出会い、日本共産党に入党



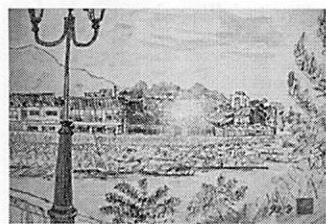
一九三二年
(大正一一)、
津山高女を卒業したアサノ

は日本女子大国文科に入学。理由は「文学志望と祖父を中心とした家父長的空気、犠牲の多い母たち女性にももっと別の生き方があるはず」という思いがあったからである。

大学に入学したアサノは日本の古典文学とともに翻訳された海外文学、特にロシア文学に魅了された。卒業の時にはロシアの文豪、ドストエフスキーに取り組んだ。そしてロシア文学からロシア語の勉強、ロシア革命のことや社会主義、社会運動への眼が向き、社会科学の学習、日本共産党に接近した。

一九二六年、日本女子大を卒業した荻田アサノは女子大同窓会が経営する桜楓会アパートに住み、湯浅芳子のもとでロシア語の勉強

- 3 -



を始めた。そこでアサノは中条百合子に出会う。ともにロシア語を学びながら交流を深め、一九二七年には早稲田大学の露文科の聴講生となる。アサノはここでも成績優秀で早稲田でも様々な人に出会い、資本論学習会を開いたり、非法法の共産党に資金カンパもしている。

一九二八年には『赤旗』が発刊され、日本共産党は中国への侵略戦争の動きを暴露し国民に『帝国主義戦争反対、中国から手をひけ!』と呼びかけた。一九二八年には第一回普選挙があり非法法の日本共産党が公然と活動して全国で労働争議、農民運動が高揚した。日本共産党の前進を恐れた天皇制政府は治安維持法を発動して三月一日に大弾圧を行い、一六〇余

「あかいわ赤旗まつり」で署名集め

岡山支部長 河井伸士

二月三日、「あかいわ赤旗まつり」が開かれ一二〇名を超える人が参加。盛況でした。小松康信岡大名誉教授が「農は平和の基なり」と講演。衆院比例予定候補の垣内京美さん。一区予定候補の住寄聡美さんも駆けつけ、ご挨拶。

会場では各地の農産物、おでんや豚汁、農民連の餅つきとにぎやか。こんな時こそ「国賠署名を」と入口付近で参加者に声をかけると次々と署名してくれ、六〇筆が集まりました。

「治安維持法と現代」を読んで 倉敷市 宇垣信子

「治安維持法と現代」春季号に「治安維持法犠牲者に賠償と謝罪を」制定を求める紹介議員を受託した国会議員名が載っていた。写真と所属党派、地元事務所が記載されている。衆院議員六七名、参院議員四二名。

元は戦時中に日本軍の七三一部隊にいた医師が「緑十字」に入社してそこで製剤の在庫が多くあったのでそれを使った。七三一部隊の「命よりも研究を重んじる精神」からでた行為だった。七三一部隊の責任者、石井四郎中将は捕虜を「マルタ」と言い、「人体実験」をやって殺害した。

川田龍平氏は血友病で非加熱製剤を接種、翌二九年四月一六日に一〇〇〇人を超える人々を接種した。一九三一年(昭和六)満州での侵略戦争が拡大される中、荻田アサノは日本共産党に入党した。それは彼女の納得した生き方だった。

許せないのはその研究成果を米国に渡して自らは「戦犯」を免れた。七三一部隊の詳細は森村誠一著「悪魔の飽食」が良く判る。

映画「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」

山梨上映実行委員会ニュース15号 2023.12.20

連絡先(実行委員長・矢崎勉)・電話090-7230-2133 ~ A e o j a c e e ~

各地で連帯上映に取り組もう！

ー3月末からの2週間で200人の鑑賞をめざすー

実行委員会では、今後、市川三郷や身延ばかりでなく、峡南各地、中央市や昭和町や他の地域でも連帯上映をし、3月末からの2週間、隙間なく上映し合計200名の映画鑑賞者をめざします。また、各団体での上映もめざして、県内の女性団体、医療団体、青年団体、商工団体、学校関係団体へ働きかけていきます。

「わが青春つきるとも」第3次上映運動

市川三郷町、身延町で実行委員会結成準備

山梨上映実行委員 戸田 康

「わが青春つきるとも・伊藤千代子の生涯」の県内での上映運動は、2022年5月の文学館での上映を皮切りに、9カ所でのべ14回の上映会が開かれ、これまで1177人が鑑賞してきました。人口比では長野に続いて全国2位となっています。県実行委委員会は全国ではじまった第3次上映運動に連帯して、峡南地域での上映を実現したいと、7月以来4回の打ち合わせ会（峡南地区実行委員会）を開き検討してきました。この中で2回の学習会も行い、「なぜ千代子の上映運動か」学んできました。この中で、市川三郷町、身延町で3月31日～4月14日の期間に上映会を実施することを決めました。この期間DVDを使って、小規模上映会も含め何カ所でも上映できる事になりますので、峡南の他地域、県内での職場、団体、地域で上映会を開くことが出来ますのでご検討ください。

☆映画の感動をいつまでも



700円で
上映会場で好評発売中！

「わが青春つきるともー伊藤千代子の生涯」映画会への私の思い

市川三郷9条の会 一瀬 正

私は、終戦の1年目の昭和19年7月1日生まれで79歳です。私の両親は横須賀に住んでいましたが、母は私を出産するために市川大門の実家、今私が住んでいる家へ帰っていました。そんな時、ニューギニアへ出兵していた母の弟が戦死した報が入り、私を出産後も母は両親を心配し、そのまま実家に留まっていました。戦後しばらくしてから、父がトラック島の戦場から帰国し、母と連絡を取ろうとしたが、連絡がとれず、父は姉のところへ行き、私たちが生きていることを知り、私たちのもとへ来てくれました。父は私には戦場のことは何にも語ってくれませんでした。母から父の戦場での悲惨な思い出を後日聞きました。生きられなくなった戦友が、食べ物が何にもない中で、父に、俺の肉を食って、頑張って生きて帰れと言って亡くなられたという話でした。伊藤千代子さんは命がけで戦争に反対し、平和を願い闘われた方です。その思いを若者はもちろん、多くの人々に知っていただきたいです。今、私たちの国の岸田政権は、アメリカの指揮のもとで、戦争をする国へと突き進んでいます。物価高騰で苦しんでいる国民への暮らしには目も向けず、軍事費の莫大な予算計上へとつき進んでいます。伊藤千代子さんの命がけのたたかひの姿を見れる映画は、今、若い人たちに観ていただきたいです。市川三郷町では、今、上映計画を進めています。4月6日（土）か7日（日）の上映会を検討中です。がんばりたいです。